



2014年10月14日
＜ご参考資料＞

BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

格付会社 S&P によるフィンランドの格下げについて

2014年10月10日、格付会社 S&P（スタンダード・アンド・プアーズ）は、フィンランドの外貨建ておよび自国通貨建て長期債格付けを「AAA」から、それぞれ1段階引き下げ、「AA+」としました。格付け見通しは「安定的」としました。一方で、短期債格付けは、外貨建ておよび自国通貨建てのいずれも「A-1+」に据え置きました。

（2014年10月10日現在）

格付会社	格付け	見通し
S & P	(発表前) AAA ↓ (発表後) AA+	安定的
(ご参考) ムーディーズ	Aaa	安定的
(ご参考) フィッチ	AAA	安定的

*格付けは外貨建て長期債格付けを使用。

今回の格下げの理由として S&P は、フィンランドの景気低迷をめぐる経済の構造的な問題があるとしています。具体的には、高齢化と労働力人口の減少、外需の低減、ハイテク産業の世界的な市場シェアの喪失、紙・パルプに代表される産業の低迷など、将来的に厳しい労働市場環境であるとしています。このような見通しから、フィンランドの財政再建と公的債務削減に向けた取り組みが急務とされています。

今回の格下げにより、主要格付け機関（S&P、ムーディーズ、フィッチ）の全てから「AAA」格付けを付与されているユーロ加盟国は、ドイツとルクセンブルクのみとなりました。市場は今回の格下げに対し特に過剰反応することは無く、上記のような経済状況を既に織り込み済みであったとの報道がされています。今回の発表は東京時間では、11日（土曜日）であったため、当日の対円でのユーロ為替市場の値動きは限定的となりました。